

## 2 : 聖書翻訳の意義

### (1) 聖書翻訳とキリスト教

1. 「宗教(キリスト教)と文化」の関係の焦点としての聖書翻訳  
キリスト教—翻訳聖書—文化
2. 聖書翻訳とキリスト教、翻訳聖書はキリスト教の構成要素である  
・70人訳聖書(LXX)の場合。

秦剛平『乗っ取られた聖書』京都大学学術出版会、2006年。

・Timothy Michael Law, *When God Spoke Greek. The Septuagint and the Making of the Christian Bible*, Oxford University Press, 2013.

・ウルガタ・ラテン語聖書の場合。

### (2) 近代・翻訳文化とキリスト教

3. 原典・原語主義：近代の人文学は、原典主義を基本にする。これは、「知の歴史性」を自覚した歴史主義を基盤にしている。

↓

聖書研究は、ヘブライ語とギリシャ語の原典でなされる。

4. 近代人文主義1：ウルガタ(ラテン語聖書)から、原典に帰れ。
5. 近代人文主義2：聖書の近代語訳(英語、ドイツ語、フランス語など)の推進。  
cf. ヒューマンイズムの多義性
6. 宗教改革・聖書主義のもたらしたもの：「聖書のみ」のスローガンの実現過程=近代国民文化形成過程(翻訳・近代語・印刷出版・教育)  
ルター訳聖書、欽定訳聖書：近代語、国民文学の形成へのインパクト
7. The two greatest influences on the shaping of the English language are the works of William Shakespeare and the English translation of the Bible that appeared in 1611. The King James Bible ---named for the British king who ordered the production of a fresh translation in 1604 --- is both a religious and literary classic. (McGrath,1)
8. 創造活動としての翻訳。翻訳は、それ自体が新しい創造活動である。

### (3) 宗教と翻訳

9. 翻訳なしに宗教は可能か。生きた宗教は土着化(文化に受容されそこに根ざすこと)しなければならない。→外来宗教の土着化は、「翻訳」を不可欠の構成要素とする。
10. 翻訳された聖典は、その宗教の新しい創造的な形態となる。仏典の漢訳。
11. 「Theos」の訳：deus、God、デウス、神→既存の用語と新しい造語、あるいは音訳。
12. 愛：御大切
13. 日本語の「神」は、Godの翻訳語として定着する過程で、日本語の「神」の意味内容を変容させた。
14. 翻訳理論、直訳や意訳か？
15. ルター訳聖書の場合。

アントワヌ・ベルマン『他者という試練——ロマン主義ドイツの文化と翻訳』みすず書房、2008年。

「ルターの翻訳の歴史的意義」「原典の特徴」にこだわる「批評的翻訳」を断念することでルターは、一般のドイツ人にも読むことができ、新しい宗教意識、つまり宗教改革によりもたらされた意識に対して揺るぎない基盤を提供しうる翻訳を作り出すことができた。」(52)

「ルターは最初から聖なるテキスト(Heilige Schrift)のドイツ化すなわち Verdeutschung を目指した。」「ルターの課題とは、良いドイツ語(gute Deutsch)で書かれたテキストを信者のコミュニティに供すことだった」(53)

### 3 : 告白文学の系譜

- ・「宗教と文化」：「宗教から文化へ」の経路としての「告白」  
宗教が言語にもたらされるとき。

#### (1) 告白文学の問題

1. 告白文学とは？ アウグスティヌスやルソーの『告白』、あるいは近代日本の私小説  
自伝文学
2. 告白とは？ だれが、だれに、何を、どのようにして

#### (2) 告白文学の源泉としての聖書

3. 詩編：祈りという形態における告白  
個人が神に → 人格的な関わり・応答関係（ブーバー：「我-汝」）
4. 罪は告白されるときに言語化される（リクール）。→告白の現象学
  - ・罪の表出の原初形態としての告白
  - ・人間のもっとも内面的な秘密の事柄は告白を求める
5. 祈り（祈祷論）：讃美、感謝、懺悔＝告白、祈願、執り成し
  - ・なぜ祈る必要があるのか。神が全知全能であるならば。
  - ・何を祈るべきか。 ・祈らないときにどうしたらよいのか。
  - ・祈りは聞き届けられるのか、聞き届けられない祈りはどうなるのか。
6. オリゲネス『祈りについて』（アンブロシオスとタティアナの懇願に応じて、「祈祷否定論・無用論」を論駁するため）

序文

#### 第一部 祈りについて

「祈り（エウケー）」と「禱り（プロセウケー）」について

祈りについての反論：「神はすべてのことをその生起する前に」「必要とするものを」「知っておられる」

反論への答

祈りの効用

キリストは我々と共に祈られる／天使も聖人らも我々と共に祈る

我々の生活全体が祈りであるべきこと

聞き入れられる祈りの手本／聖書にみられる聞き入れられた祈りの例／今日でも、以上で述べた如き祈りは聞き入れられる

何を祈るべきか／四種の祈り／願い／禱り／執り成し／感謝

御父ただひとりに祈らねばならない／キリストを通して祈らねばならない

霊的恵みと物質的恵み

#### 第二部 主の祈り

- ・言葉の選択と吟味、内容の反省
- ・「文学としての祈り」（関根正雄『旧約聖書文学史』上下、岩波全書）  
「詩篇」「歎き」Klageよりも「訴え」Anklageの要素が強いこともヴェスターマンの指摘する通りであろう。さらに口をついで出た「うめき」Stosseufzerの要素が強いが、詩篇では文学的に展開され、前述の「祈り」（テフィッター）となっていると言えよう。」（上、260）
- 6. 書簡（パウロ書簡）：手紙に挿入された告白  
神と自己との関わりについての証言という形態を取る。
- 7. 書簡の受け手、テキスト化：特定の聴衆から一般の読者へ



### (3) 文学ジャンルとしての告白

8. 山田晶「二 告白と言葉 告白はなぜ言葉によらなければならないか」(『アウグスティヌスの根本問題』創文社、1977年)。

「「告白」という犠牲は、「舌」という手を以てささげられるのである。」(28)

「告白」「罪の告白の場合に *confiteri* という動詞を用いているのであって、そのかぎりにおいて、「告白する」とは「懺悔する」ことであるといつてよい。それにもかかわらず、・・・「告白」と「懺悔」を同一視することはできない。・・・神を讃美する場合・・・「告白」は「懺悔」ではなくむしろ「讃美」なのである。」(29)

「*confiteri* というラテン語の本来の意味は、「あることがらをあるままに承認し、かつその承認を表明すること」(30)

「この意味で告白は知性認識を前提する。」(35)

「神の前において意味があるのは、語られることがらよりもむしろ、語るときのわれわれの態度である。」「回心」(36)

「書くということは、内なる言葉を単に神に伝えるためだけでなく、人々にも伝えるためである。」(38)

「自己を語るためではなく神を語るためだった。」「喜びと讃美とを人々の間にひき起こすこと」(40)

「告白がそれによってなされた「内なる言葉」は、音声の衣をまとい、「外なる言葉」として、人々の世界に伝えられねばならなかったのである。」「人間の神に対する全き帰依と礼拝の心が表現されるため」(41)

### 9. 再度、パウロ。

「10:8 では、何と言われているのだろうか。「御言葉はあなたの近くにあり、／あなたの口、あなたの心にある。」これは、わたしたちが宣べ伝えている信仰の言葉なのです。9 口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。10 実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。」(ローマ 10 章)

「1:4 神は、あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださるので、わたしたちも神からいただくこの慰めによって、あらゆる苦難の中にある人々を慰めることができます。5 キリストの苦しみと満ちあふれてわたしたちにも及んでいるのと同じように、わたしたちの受ける慰めもキリストによって満ちあふれているからです。6 わたしたちが悩み苦しむとき、それはあなたがたの慰めと救いになります。また、わたしたちが慰められるとき、それはあなたがたの慰めになり、あなたがたがわたしたちの苦しみと同じ苦しみに耐えることができるのです。」「4:7 ところで、わたしたちは、このような宝を土の器に納めています。この並外れて偉大な力が神のものであって、わたしたちから出たものでないことが明らかになるために。」(第二コリント)

内なる言葉(神から・神へ) → 外なる言葉(人々へ)

### 9. アウグスティヌスの『告白』

作品となった「告白」あるいは「告白」として提示された思想

### 10. 「自伝」としての告白：自己同一性の確認と提示＝自伝

神へ、人々へ、自分自身へ。

### <詩編 51 編>

#### 1 【指揮者によって。賛歌。ダビデの詩。】

2 ダビデがバト・シェバと通じたので預言者ナタンがダビデのもとに来たとき。】

3 神よ、わたしを憐れんでください／御慈しみをもって。深い御憐れみをもって／背きの罪をぬぐってください。4 わたしの咎をことごとく洗い／罪から清めてください。5 あなたに背いたことをわたしは知っています。わたしの罪は常にわたしの前に置かれています。6 あなたに、あなたのみにもわたしは罪を犯し／御目に悪事と見られることをしました。あなたの言われることは正しく／あなたの裁きに誤りはありません。7 わたしは咎のうちに産み落とされ／母がわたしを身ごもったときも／わたしは罪のうちにあったのです。

#### <ローマの信徒への手紙>

7:14 わたしたちは、律法が靈的なものであると知っています。しかし、わたしは肉の人であり、罪に売り渡されています。15 わたしは、自分のしていることが分かりません。自分が望むことは実行せず、かえって憎んでいることをするからです。16 もし、望まないことを行っているとすれば、律法を善いものとして認めているわけになります。17 そして、そういうことを行っているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。18 わたしは、自分の内には、つまりわたしの肉には、善が住んでいないことを知っています。善をなそうという意志はありますが、それを実行できないからです。19 わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている。…… 24 わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。死に定められたこの体から、だれがわたしを救ってくれるのでしょうか。25 わたしたちの主イエス・キリストを通して神に感謝いたします。このように、わたし自身は心では神の律法に仕えています、肉では罪の法則に仕えているのです。

#### <アウグスティヌス『告白』>

##### 第一巻第一章

一 偉大なるかな、主よ。まことにほむべきかな。汝の力は大きく、その知恵ははかりしれない。

しかも人間は、小さいながらもあなたの被造物の一つの分として、あなたを讃えようとします。それは、おのが死の性を負い、おのが罪のしるしと、あなたが「たかぶる者をしりぞけたもう」ことのしるしを、身に負うてさまよう人間です。

・・・

よろこんで、讃えずにはいられない気持にかきたてる者、それはあなたです。あなたは私たちを、ご自身にむけてお造りになりました。ですから私たちの心は、あなたのうちに憩うまで、安らぎを得ることができないのです。

・・・

主よ、私はあなたを呼びもとめたい、信じながら呼びもとめたい。

・・・

#### <参考文献>

1. アウグスティヌス『告白』岩波文庫、『アウグスティヌス告白』中央公論社。
2. 山田晶『アウグスティヌスの根本問題』創文社、『アウグスティヌス講話』新地書房。
3. 坂口ふみ『<個>の誕生——キリスト教教理をつたえた人びと』岩波書店。
4. ルソー『告白』（上中下）岩波文庫、『孤独な散歩者の夢想』岩波文庫。
5. リクール『悪のシンボリズム』溪声社。
6. オリゲネス『祈りについて・殉教の勧め』創文社。
7. 棚次正和『宗教の根源——祈りの人間論序説』世界思想社。